

令和7年度 第1回 大通公園アドバイザーボード

令和7年11月20日
札幌市 建設局 みどりの推進部

1. 検討経緯・現状と課題	P1
2. 大通公園のあり方〈テーマ・コンセプト〉	P2
3. 大通公園のあり方〈空間形成の考え方〉	P3
4. これまでの検討状況と今後のプロセス	P4
5. 施設現況について	P5
6. 市民意見について	P6
7. 基本計画の検討方針	P7 - P13

■ 公園の概要と経緯

大通公園の概要

【所在】 札幌市中央区大通西 1～12丁目【面積】 78,901㎡【種別】 特殊公園
【変遷】 明治4年（1871年） 開拓使により火防線等を目的に広幅員の道路を整備
明治44年（1911年） 西 3～7 丁目において本格的な公園整備
昭和25年（1950年） さっぽろ雪まつり初開催
昭和43年（1968年） 札幌市創建百年記念事業として西 1・2 丁目を公園化、
西 4 丁目などで噴水を整備
昭和55年（1980年） 都市公園法を適用して大通公園として告示
平成元年（1989年） 大通公園リフレッシュ事業により再整備（～1994年完成）



大通公園のあり方検討・基本計画検討の経緯

● 行政計画 ■ 緑の審議会 □ 大通公園のあり方検討会

年度	月	経緯
令和5年度 (2023年度)	9月	■第94回 緑の審議会（9/19）
	10月	●札幌市都心のみどりづくり方針 ●大通及びその周辺の街づくり方針 -札幌都心はぐくみの軸強化方針-
	11月	□第1回あり方検討会（11/2） ・大通公園の魅力と機能の向上について
	12月	□第2回あり方検討会（12/18） ・「いこい」と「にぎわい」の両立について
	3月	□第3回あり方検討会（3/18） ・沿道と連携したみどりの軸の強化について
令和6年度 (2024年度)	5月	■第95回 緑の審議会（5/14） ・検討状況の中間報告
	7月	□第4回あり方検討会（7/11） ・誰もが利用しやすい公園づくり、大通公園のあり方（骨子案）
	8月	○大通公園のあり方検討に係るオープンハウス（8/2～8/3）
	10月	□第5回あり方検討会（10/21） ・大通公園のあり方（素案）について
	1月	□第6回あり方検討会（1/27） ・大通公園のあり方（案）について
	3月	■第97回 緑の審議会（3/13） ●大通公園のあり方
令和7年度 (2025年度)	4月～	大通公園の基本計画詳細検討

■ 現状と課題

1. 大通公園の魅力と機能の向上

【大通公園の現状】

- 都心の中のみどりの豊かさや、大倉山・テレビ塔への眺望などは市民から親しみ愛されてきた。
- 平成の再整備時から大きく育った樹木はみどりの軸を強化させてきた。
- 公園周辺に保育施設が増えたこと、イベント開催期間や回数の増加などにより、利用目的・利用時間の変化が生じてきた。
- 指定管理制度導入により一定の管理水準を図っている。

【主な課題】

- 沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討および、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善が必要。
- 平成の再整備当時からおよそ30年が経過し、公園施設全体、特に電気・機械設備系の老朽化が深刻である。
- 時代やニーズの変化に合わせた公園施設の更新が求められる。
- 柔軟な管理運営手法の検討や活用が必要である。



2. 「いこい」と「にぎわい」の両立

【大通公園の現状】

- 大通公園の利用者は「美しい景観」「みどり」「水景空間」などを公園の魅力と認識している。
- 大通公園は1年を通してイベントが多く開催され、来場者の増加に伴い経済波及効果が大きく、公園におけるにぎわい機能を担っている。
- 大通公園でのイベントを楽しみにしている市民も多い一方で、公園本来の機能である休息や滞留といった日常利用を求める声もある。

【主な課題】

- 日常利用とイベント利用の双方の機能が求められているが、日常利用できる期間およびエリアに制限がある。
- イベントの準備期間短縮につながるような施設整備が求められている。
- 多様なニーズがある大通公園ではソフト面に関する検討も必要である。



3. 沿道と連携したみどりの軸の強化

【大通公園の現状】

- 平成の再整備時から大きく育った樹木はみどりの軸を強化させてきた。（再掲）
- 周辺では民間の建物更新の機運が高まっており、大通公園のみどりを意識した開発の動きも見られる。

【主な課題】

- 平成の再整備時より樹木が大きくなり、遮蔽部分の増加、維持管理費の増加、道路への越境が課題である。
- 日常的な駐輪や路上喫煙、公園施設の配置状況、イベント時のプレハブ設置、樹木の成長などにより、沿道とのつながりが薄れている。
- 公園側歩道部（2m歩道）は、狭さや土舗装による歩きにくさ、駐輪、道路施設などがあり、歩行空間としてあまり利用されていない。
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠ける。



■ テーマ・コンセプト

大通公園のあり方
P8より引用
令和7年(2025年)3月 札幌市

大通公園のあり方： **Inclusive “Green” Corridor** ~誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間~

防火帯から市民の憩いの場となり、公園・道路・沿道が一体となった空間形成を目指している背景を踏まえ、今後もみどり豊かな空間であるとともに、多様な価値観を受け入れ、誰もが互いに尊重しあうこれからの時代にふさわしい象徴空間を目指す

01-1 歴史性・地域性

- ・ みどり豊かなこの空間の継承
- ・ 市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- ・ 都心のオアシスである水景空間の継承
- ・ 歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承



02-1 生活の場（日常）

- ・ 四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- ・ 年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備



03-1 都市の中心にあるみどり

- ・ 中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間を維持・向上
- ・ 芝生や花壇に一層親しむことのできる環境やみどりを身近に感じられる機会を創出
- ・ 都心のオアシスである水景空間の更新



04-1 連続した軸としての一体性

- ・ 大通公園の特徴や成り立ちを踏まえた一体性のある景観形成
- ・ 大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや回遊性を意識した空間形成
- ・ 街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討



05-1 公共によるマネジメント

- ・ 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- ・ 公園の周辺ならではの開発インセンティブの促進
- ・ 公園利用ルールの検討



01

過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02

日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04

一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

05

公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

01-2 将来性・国際性

- ・ 環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- ・ 国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- ・ デジタル機能を活用した利用者サービスの向上や管理運営の効率化



02-2 発信の場（非日常）

- ・ 多様な日常利用とイベント利用の両立を図る最適な空間配置の検討
- ・ 札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討



03-2 みどりと近接したまちなみ

- ・ 都心部の回遊拠点として、まちとつながり、アクセス性・回遊性を高める公園環境の整備
- ・ 大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する公園と沿道との一体感を高める空間整備



定禅寺通り（仙台市）

04-2 各街区の個性

- ・ 丁目ごとの変化が感じられ、歩きたくなる空間の形成
- ・ 沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- ・ 景観に配慮した施設の整備



05-2 民間事業者・市民団体の活力

- ・ 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- ・ 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



大通西4南再開発（イメージ）
山典：大通西4南地区市街地再開発組合

■ 空間形成の考え方

大通公園のあり方
P12より引用
令和7年(2025年)3月 札幌市

西11-12丁目

札幌の歴史と文化を伝承するエリア

- 札幌の文化、花とみどりを活かし、多様な交流をはぐくむエリア
- 姉妹都市施設、西13丁目の資料館といった札幌の歴史を体感できるエリア
- 芝生や花壇、ガーデニングといった大通公園の文化を体感できるエリア

西5-10丁目

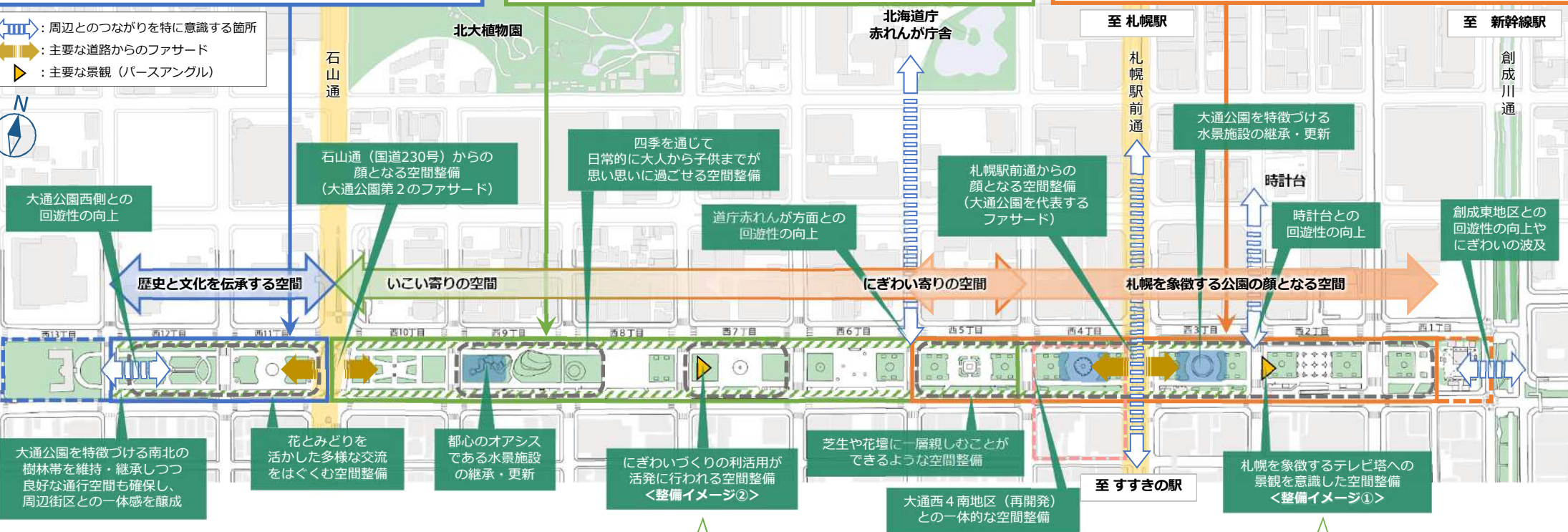
多様なニーズに対応した札幌ならではの活動を体験できるエリア

- いこいの充実を図ることにより、多様なライフスタイルと都市型イベントの共存を図るエリア
- イベントの質的向上を図ることで札幌を代表するイベントを体験できるエリア
- 多様な遊び・休息・滞留機能の充実、冬でも遊べる仕掛けを取り入れることで札幌ならではの公園利用を体験できるエリア

西1-5丁目

札幌を象徴する公園の顔となるエリア

- 札幌都心の骨格軸である札幌駅前通と大通が交差し、札幌を象徴する施設・活動が集積するエリア
- 大通公園を特徴づけるみどりや水景施設のほか、テレビ塔や大倉山への眺望により、札幌らしさを体感できるエリア
- 沿道と一体となったにぎわいが創出され、多くの来街者の滞留や交流が生まれるエリア



<整備イメージ②> 西7丁目から東方向

【想定整備内容】

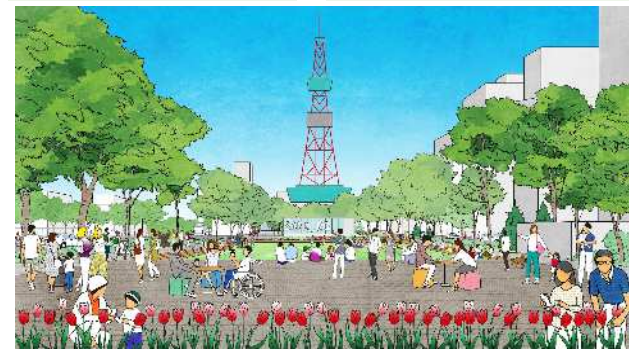
- 様々なイベント開催を想定した舗装広場（イベント施設の設営・撤去期間の短縮につながるような、給排水・電気設備等の設置を含む）
- バックヤード機能も兼ねたステージを園路沿いに配置
- 沿道側（樹林帯）への良好な通行空間

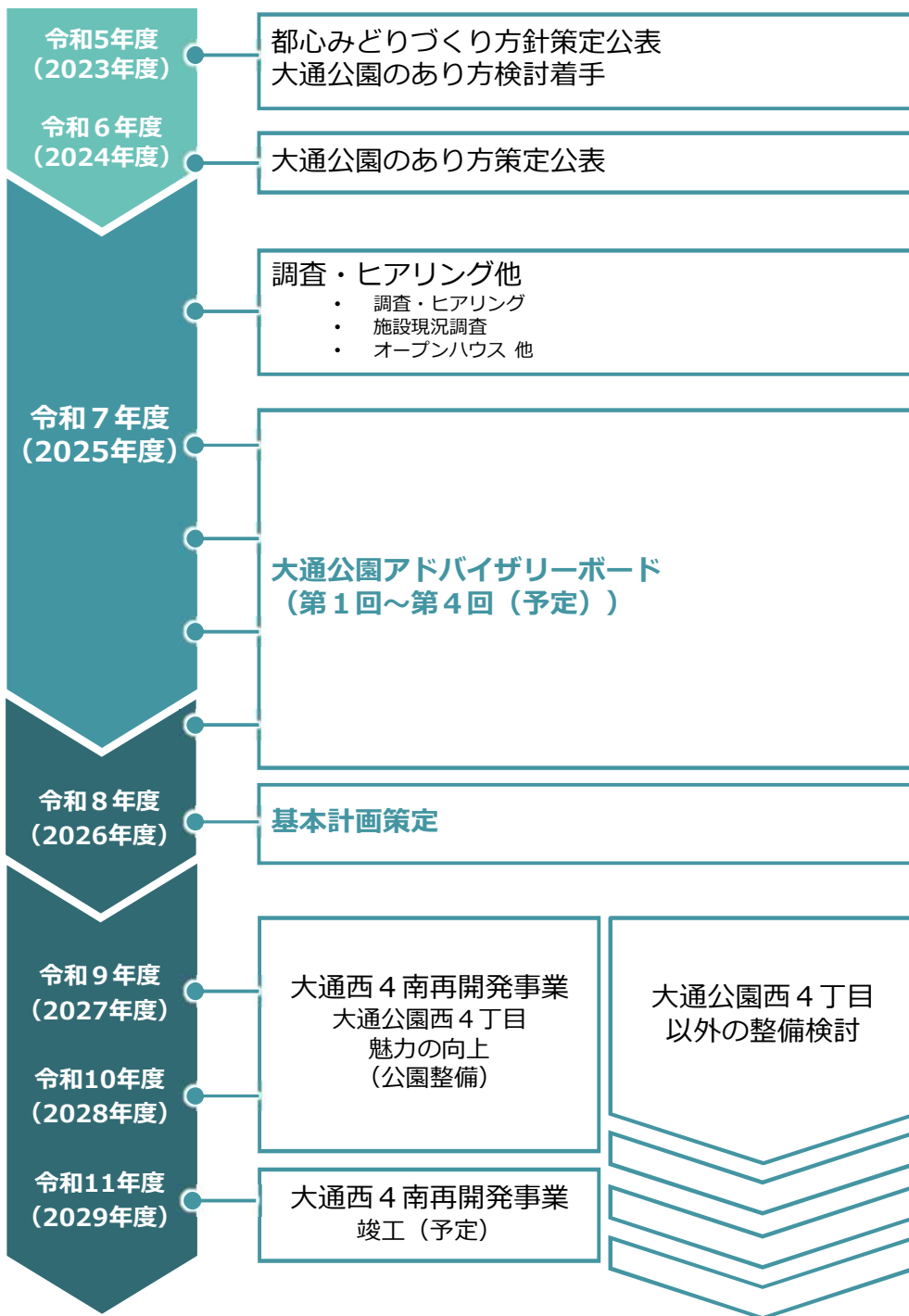


<整備イメージ①> 西2丁目から東方向

【想定整備内容】

- テレビ塔への見通しを確保した空間
- 思い思いに過ごすことができる設えを備えたまとまりのある芝生広場と舗装広場
- 市民に親しまれ愛されてきた花壇を現在と同規模で適所に配置





大通公園アドバイザーボード 議論項目・進め方 (案)

第1回 報告・議論項目

令和7年11月20日
(本日)

第1回 アドバイザーボード

<主な報告事項>

- ・ 樹木調査、簡易診断、施設現況調査 (5月～8月)
- ・ オープンハウス (9月)

<主な議題>

- ・ 検討の方向性について
- ・ 今後まとめていくべき各種計画とその方向性について
- ・ 本アドバイザーボードの進め方について

令和8年1月頃
(予定)

第2回 アドバイザーボード

<主な議題> 基本計画素案について (西4丁目含む)

令和8年3月頃
(予定)

第3回 アドバイザーボード

<主な議題> 基本計画案について (西4丁目含む)

令和8年6月頃
(予定)

第4回 アドバイザーボード

<主な議題> パブリックコメント 付議案について

パブリックコメント後、基本計画策定へ

■ 施設現況について

施設現況について

- ・ 1989年の「平成の再整備」当時からおよそ30年が経過し、公園施設全体の老朽化が進んでいる。今後の基本計画の策定に活かすため、施設の施設使用見込み期間※および現在の不具合の状況を整理した。
- ・ 老朽化が進む中で、修繕等を繰り返し、安全に利用ができるよう維持管理を行っている。

【ベンチ】

- ・ 数量 : 526基
- ・ 施設使用見込み期間：30年
- 使用期間超過 : 514基 (約97%)

【照明】

- ・ 数量 : 132基
- ・ 施設使用見込み期間：30年
- 使用期間超過 : 132基 (100%)

【水路・池・噴水】

- ・ 数量 : 9箇所
- ・ 施設使用見込み期間：－
- 躯体の老朽化による漏水 (西11丁目、西12丁目)
- ポンプ老朽化による運転休止 (西4丁目)

【園路】

- ・ 数量 : 31,946㎡
- ・ 施設使用見込み期間：30年
- 使用期間超過 : 100%
- 御影石舗装下地のモルタルの劣化による割れ
- インターロッキング舗装不陸による段差の発生



【遊具】

- ・ 施設の種類と数量：滑り台 (2)、鉄棒 (1)、象形遊具 (2)、ぶらんこ (2)、複合遊具 (1)、砂場 (1) ほか
- ・ 施設使用見込み期間：36年
- 使用期間超過 : 2基 (約10%)

【建築物 (管理事務所・ステージなど)】

- ・ 施設の種類と数量：トイレ (5)、物品庫 (2)、インフォメーションセンター (1)、管理事務所 (1)、ステージ (1)、喫煙所 (1)
- ・ 施設使用見込み期間：41～60年
- 使用期間超過 : 0箇所 ※トイレは2030年に使用見込み期間の41年を迎える。

【イベント用施設】

- ・ 種類と数量
イベントボール(211)、イベント用給水栓(51)
- ・ 施設使用見込み期間：40年
- ボール基礎の不陸、アンカーの腐食により、ボール建て込み困難
- イベント用給水設備止水栓の老朽化により、漏水などが発生

【その他公園施設】

- ・ 数量 上水：約7,100m 下水/雨水排水：約4,600m
- ・ 電気配線：約3,000m 各種排水樹等：53箇所
- ・ 施設使用見込み期間：－

【彫刻・記念碑】

- ・ 彫刻類数量 : 21基
- ・ 施設使用見込み期間：－
- 彫刻類のうち3基：コーキング等の軽微な補修が必要 (札幌市文化局調査結果より)

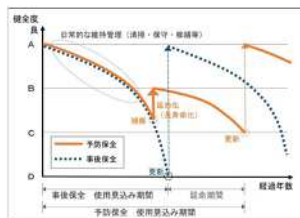


※施設使用見込み期間

「処分制限期間」 経過後、「劣化が著しく進行するまでの期間」とする。

- 予防保全型管理**における使用見込み期間は、「整備時からの経過期間」に、「対策時期」に実施した補修 (1回～複数回) により長寿命化が図られた「延命期間」を加えた期間。
 - 事後保全型管理**における使用見込み期間は、処分制限期間経過後、劣化が著しく進行するまでの期間。
- **大通公園では遊具、管理事務所、屋外ステージ以外は、すべて事後保全型に分類。**

出典：国土交通省 公園施設長寿命化計画策定指針 (案) 【改定版】より



出典：札幌市公園施設長寿命化計画より

■ 樹木現況について

樹木調査・簡易診断の概要について

- ・ 今後の大通公園の樹木環境を考える際に必要な、既存樹木の容姿・健全度を調べるため、樹木調査、簡易診断を実施した。

調査期間	令和7年（2025年）5月19日(月)～8月31日(日)
調査箇所	大通公園西1丁目～西12丁目
調査概要	①全調査木874本、樹高3m以上（ライラック等含）、丁目毎にナンバリングテープ貼付。 ②樹木位置を確認しながらナンバー順に診断調査を実施。 ③診断は地上部の「樹勢」をみる「容姿診断」、主として根元周囲の傷・腐朽の「健全度（被害度）」をみる「健全度診断」の2本立てで行う（1次診断）。 「容姿診断」は「樹形」「枝の枯れ」「枝葉密度」「葉色形状」「病虫害」「剪定」の6項目（平均値採用）を、「健全度診断」は傷・腐朽の「範囲」「深さ」について、それぞれ「1健全、2やや注意、3要注意、4危険」の4段階評価を行う。
診断基準	④総合評価は3段階で、基本的に「容姿：1, 2」「健全度：1」のとき「1健全」、「容姿：1, 2, 3」「健全度：2, 3」のとき「2要観察」、「容姿：3」「健全度：3」のとき「3危険」とする。

樹木調査の結果および今後の考え方について（樹木医所見）

【簡易診断結果】

- ・ 「1. 健全」「2. 要観察」が全体の98%、「3. 危険または要対策」は全体の2%であった。
- ・ 南北において生育の差異がある。**南側大通の平均樹高は北側大通と比べ約10%ほど高い。**南大通側は既存建物の影になるため、樹木は光を求めて上長成長するためである。(図-1)
- ・ 郷土種が27種、国内移入種が10種、外来種が12種 (計49種) いずれも健全性に差異は見られない。

【今後の考え方】

- ・ **公園利用者の安全性の確保と、公園樹木の健全性の確保の両立が求められる。**
- ・ そのために、**高木（樹高20m以上）の混み合った部分の剪定・間伐を行うべきと考える。**特に西11丁目南東角、地下鉄入口周辺のアカナラ群について検討すべき。(計21本、平均樹高20.5m、最大樹高26m) (図-2)
- ・ **剪定は、樹高：10～15m、植栽間隔：5～10mを目安とする。また、形状比H/D（樹高H、直径D(m)）も参考にする。**(H/D≥50以上は要注意～危険 ※) (図-3)
(※出典：クラウス・マテック「樹木の力学」2004、堀大才、三戸久美子訳、発行所 (有)青空計画研究所)

【中長期的な考え方】

- ・ 樹木管理において「剪定・間伐 (伐採)」は最も重要な作業ともいえる。**成長鈍化・衰弱進行・危険木化 (枯枝落下、倒木危険) した樹木は、適宜巡回し、調査結果をもとに単木のみならず「樹木群」としての樹勢回復を念頭に、「剪定・間伐 (伐採)」等の処置が考えられる。**
(形状比H/Dの高い樹木は細長い樹形のため、倒木危険度だけではなく立ち枯れの危険性も高いことから、一般的には優先して間伐 (伐採) 対象木となる。)

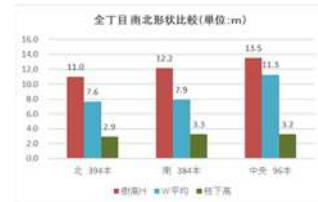


図-1：南北の生育の差について



図-2：特に高木が重なっている部分の状況 (西11丁目)

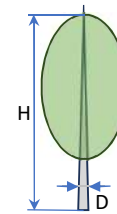


図-3 側面図

■ オープンハウスの開催概要と結果について

開催概要について

開催期間	令和7年（2025年）9月19日(金)～20日(土)
開催箇所	大通公園 西3丁目
参加人数	522名（9月19日(金)：245名 / 20日(土)：277名）
実施内容	パネル・資料の展示、職員による説明、市民意見の聴取（シール投票）、自由意見の記入





会場の様子

説明およびシール投票の様子

市民意見の聴取（シール投票）

■基本計画の策定に活かすため、市民および観光客より意見徴収を行った。

①資料の展示・説明を通じ公園の全体像を把握いただき、利用者のお気に入りスポット・大切にしたい要素を調査した。

➤札幌市民、観光で訪れた方の両方から**一番人気の高いスポットは、西12丁目**であった。今回のオープンハウスで西12丁目のガーデンの存在を知り、行ってみたいと回答された方が多数。

➤札幌市民の大きな得票数を獲得した**西8・9丁目**は、**遊具、ブラック・スライド・マントラ**の利用が多いと想定される。また、**西3丁目も大通公園の中心部として得票数が多い結果**となった。

➤観光で訪れた方は、テレビ塔に隣接する西1丁目、札幌・大通公園の中心部となる西3丁目がお気に入りスポットであった。

②**西3・4丁目の設計に反映させるため、利用者の関心の高い要素を調査した。**


○噴水に求める機能

➤札幌市民、観光で訪れた方の両方から「**夜も楽しめる噴水**」の得票数が一番高かった。その次は「**音や動きを楽しめる噴水**」であった。

○空間（休憩施設等）に求める機能

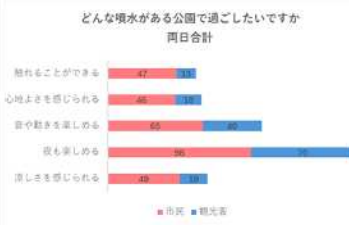
➤札幌市民は「**気軽に立ち寄れ一息つける空間**」、観光で訪れた方は「**公園の雰囲気を楽しむことができる空間**」の得票数が一番高かった。市民の場合、公園でゆったり過ごせる空間を求めること、観光客の場合、楽しい空間を求めることと推察する。

丁目別お気に入りスポット 両日合計



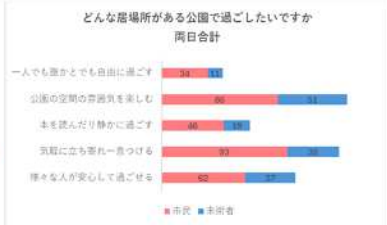
丁目	市民	観光客
1丁目	24	79
2丁目	13	99
3丁目	43	40
4丁目	41	13
5丁目	56	82
6丁目	13	17
7丁目	13	17
8丁目	13	17
9丁目	13	17
10丁目	13	17
11丁目	13	17
12丁目	121	121

どんな噴水がある公園で過ごしたいですか 両日合計



機能	市民	観光客
触れることができる	44	24
心地よさを感じられる	46	116
音や動きを楽しむ	85	88
夜も楽しめる	96	97
涼しさを感じられる	48	74

どんな居場所がある公園で過ごしたいですか 両日合計



機能	市民	観光客
一人でも誰かとも自由に出会遇到	34	31
公園の定期的な企画を楽しむ	66	51
本を読んだり静かに過ごす	36	116
気軽に立ち寄れ一息つける	83	96
様々な人が安心して過ごせる	63	97

主な自由意見について

- 基本計画の策定や現状の課題・ニーズの把握のため、市民および観光客より自由記述式の意見徴収を行った。
- 市民から約75件の自由意見をいただき（※付箋に書き込まれた意見のうち、テーマが異なる2つ以上の意見はそれぞれの意見としてカウント）、それを**テーマごと**に分類し、**主要な意見**を「表-1」にまとめた。
- これまでの市民意見の傾向を確認するため、令和6年度に行われた大通公園のあり方オープンハウスにおいて得られた主要な意見についても参考として、左記の「表-2」にまとめた。
- 「**開発の方向性**」について
- 先進事例を参考としながら、今の大通公園の魅力を活かしながらさらに良い空間を創出することを求める声を確認できる。
- 「**管理**」について
- 既存のみどりをしっかり管理していく観点とカラスへの対策や快適に安心して過ごすことを求める意見があげられる。
- 「**好きな場所**」について
- ブラック・スライド・マントラを残してほしいという意見が多い。また、西6丁目の木陰の空間、西12丁目のガーデン空間が市民のうちのうおいの空間としてピックアップされている。
- 「**整備**」について
- 夏季の猛暑対策として涼しい場所（水景の活用）、冬季の雪遊びができる空間の確保を求める声が多く上がっている。また、悪天候に対応できる屋根のある空間、子どもの遊びの空間を求める声もあった。さらに、駐輪場の増設、常設のお店を求める声も目立つ。
- 「**イベント**」について
- 日常とイベントの両立を求める声が多く上がっていた。一方で、季節のイベントを楽しんでいる意見、飲食以外を望む意見がある。
- 「**その他**」について
- 歴史の継承を意識した計画を進めてほしいという声が上がっている。

表-1 令和7年度 オープンハウスにおける主要な市民意見のまとめ		表-2（参考）令和6年度 オープンハウスにおける主要な市民意見のまとめ	
テーマ分類	主要な意見	主要な意見	主要な意見
開発の方向性	札幌らしさを活かしながまちづくりを進めて	開発の方向性	子供から大人まで誰からも興味を持たれる公園になってほしい
	今の大通公園の良さを生かしてさらに良質な空間に！		観光客からも愛される公園になってほしい
	民間の力を借りてより魅力的な空間に 収入も確保して		市民・旅行者がゆったり見ながら心や身体をくつろげる空間であってほしい
	海外の公園を参考にして		大通公園は札幌のオアシスであってほしい
管理	今後も花木をキレイに管理されるといいなと思います	管理	施設を更新し、現在の大通公園を活用してほしい
	カラスにおびえずお日様の下でお昼を食べたい		緑やお花のきれいで魅力的なそのままの大通公園であってほしい
好きな場所	花がいっぱいあってきれいな公園です。	好きな場所	夏期は熱中症が増えているので張り紙等の対策を行ってほしい
	西12丁目のローズガーデンが好きです		カラスがいない安全な公園になってほしい
	中心部にきれいな公園があるのがとても良いと思います。これからも、きれいに見ていたいと思います。		ブラック・スライド・マントラはこれからも残してほしい
	くろいすぱりだいのくるくるするのが好き。（ブラック・スライド・マントラ）		木がいっぱいあるので6丁目が好き
整備	噴水、夏だけでなく冬も何らかの使い方ができるとよい！	整備	遊べる場所をたくさん整備してほしい
	涼しい所、沢山ほしいです。		ワークショップなどの活動ができる場所があるといい
	屋根がほしい		たくさん雪あそびができる場所が欲しい
	しばふがいっぱいほしい		スポーツを楽しめる場所が欲しい
	水の足湯とか。夏は暑かったからすずしくなる場所があるといい(子供だけでなく大人も涼しさを感じたい)		景色を眺められる場所がほしい
	遊具のあるエリアが増えるといい。		悪天候でも休める場所が欲しい
	未来には、アートの要素景観・造形などを取り入れると、より札幌の魅力が高まると思います。		雪だるまを作れる場所が欲しい
	一人がけのベンチがあるといい		緑や花を眺められる空間を整備してほしい
	駐輪場が色んなところにほしい！		幼児～高学年までの子どもが遊べる遊具を設置してほしい
	常設のお店があるとうれしいです		遊具でもっと遊べるような場所にして欲しい
イベント	季節のイベントも好き！憩いの場」との両立を！	イベント	足湯や手湯を設置してほしい
	イベントの集客にたよる事なく公園をいこの場としてのこしてもらいたい		夏に冷たい水と触れ合える場所を整備してほしい
	イベントと日常の共存の仕方に工夫が欲しいです。		水辺の空間を整備してほしい
	イベントで場所を取りすぎ！		みんなで作る花壇を整備してほしい
その他	イベントがやっても公園内が歩きやすくあってほしい!!	その他	飲食できる場所が欲しい
	先人が残してくれたこの場所(の意味や目的)をしっかり理解して、プレーンな場所に。		自転車や公園に行きやすい整備をしてほしい
	計画や今後の進捗がもっと市民に広かれて分かるといいと思います。		街の安全を守る拠点になってほしい
			イベントのない日の公園も楽しみたい
			おしゃれなイベントをやってほしい
			公園内でストリートパフォーマンスができるようになって欲しい
			飲食イベントが多すぎる
			大人向けの飲食イベントが多すぎる
			北海道民が自分の住んでいる場所の歴史をもっと知る場所にしてほしい
			公園周辺にボランティアを今以上に増やしてほしい
			市民にも大通公園の活用について意見を聞くようにして欲しい

第4次札幌市みどりの基本計画

令和2年（2020年）3月

札幌市都心のみどりづくり方針

令和5年（2023年）10月

大通およびその周辺の街づくり方針

-札幌都心はぐくみの軸強化方針-

令和5年（2023年）10月

大通公園のあり方 令和7年（2025年）3月

01 過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承するとともに、これからの時代にふさわしい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02 日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03 都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出するとともに、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04 一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つとともに、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくする空間を創出していく

05 公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

調査・検討事項、現況・課題の確認

✓ 平成の再整備における考え方

✓ 公園施設の現況調査

✓ 樹木調査・簡易診断

✓ 測量調査

✓ 市民意見

✓ 観光関連団体

✓ 大通公園の現況および課題

その他関連する上位計画等

✓ Well-Moving City SAPPORO 2045ビジョン（素案）におけるリーディングプロジェクトに設定

□ 大通公園周辺

- 平成元年の再整備から30年以上が経過し、施設の老朽化が進むとともに公園に求められる役割も変化していることから、魅力ある公園づくりに向けた検討を進めています。
- また、街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなる空間形成に向けた検討を進めます。



✓ 第3次都心まちづくり計画検討会（および居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会）における議論事項より（抜粋）

- 都心まちづくりの理念「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」
- 目標1 多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心
- 目標2 冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心
- 目標3 気候風土に即した先進的な脱炭素化・強靱化の取組が進む都心

5つの分野別の計画に反映

第1回 報告・議論項目

資料:P.8-9

(1) 空間計画

資料:P.10

(2) 植栽計画

資料:P.11

(3) 施設計画

資料:P.12

(4) 環境計画

資料:P.13

(5) 管理運営計画

基本計画

■空間計画について（空間構成・ゾーニング）

計画の経緯・現在の大通公園

明治～昭和期の経緯・考え方

- 明治期：都市の「防災」と「散策（逍遙）」のため、自然を重視した空間として計画
- 大正～昭和初期：社会の近代化と人口増加に伴う都市機能の集積と基盤整備が進む
- 昭和中期～後期：市民のための活動空間および都市公園としての役割確立

平成の再整備の考え方

- 時代の変遷を経て固定化し、利用者に親しまれている空間特性及び平面デザインを尊重する。
- 閉鎖的空間のくり返しよりも、オープンな空間の連続が、札幌の風土に合う。ただし、歴史的に形成された樹木を取り払ってまでオープンな空間にすることはしない。
- 大通公園再整備の基本方針
 - ・ 緑にあふれ水にふれることのできる都心のオアシスとしての機能
 - ・ 人が集い交流し、多彩なイベントが行われる空間
 - ・ 札幌市の中心軸として歴史的に形成された都心空間の価値
 - ・ 都市と自然の融合を図り、緑・花・水・光などの演出
 - ・ 札幌の都心空間にふさわしいデザイン

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

現在の大通公園

- 都心の中のみどりの豊かさや、公園からの眺望などは、市民から親しみ愛されて来た。
- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間の検討が必要。
- 大通公園のみどりを意識した開発もみられるが、全体として沿道のみどりの量は少なく、みどりによる一体的な空間創出に課題がある。
- 公園内の芝生や各丁目で展開される花壇は大通公園を特徴づける魅力であり、価値でもある。



今後の方向性

【空間の基本的な構成について】

- ・ 長年親しまれてきた平面を基調としたオープンな空間と、樹木・芝生・花壇からなる構成は、平成の再整備の考え方を継承する。
- ・ 歴史的に形成された樹木空間（西6丁目と西9丁目）まで取り払ってオープンな空間にはしないという、平成の再整備の考え方を継承する。

【各丁目が有する機能について】

- ・ 平成の再整備の考え方を踏まえながら、様々なニーズの変化を尊重した3つのゾーニング（ゾーン分け）とする。
 - 西1～5丁目：札幌を象徴とする公園の顔となるエリア
 - 例）西3丁目では、樹林帯に木陰の居場所を創出し、様々な距離感でイベントの関わりを選択できる。
 - 西5～10丁目：多様なニーズに対応した札幌ならではの活動を体験できるエリア
 - 例）西7丁目では、まとまった面積の舗装広場を設け、イベント利用のしやすい空間を設定する。
 - 西11～12丁目：札幌の歴史と文化を伝承するエリア
 - 例）西11丁目は、駅からの人の流れと、バラ園と資料館との一体感を意識した滞留空間を創出する。

【周辺街区との関連付けについて】

- ・ 公園周辺での建物更新の機会を捉え、大通公園を意識した緑化の検討がなされるよう働きかけを行っていく。

大通公園のあり方より

02-D

イベントが盛んに行われている西5・6・7丁目において、芝生と舗装のバランスの再編を検討し、イベントを開催しやすい空間を実現する。



02-F

様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるような施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図る。



03-A

現状のみどりをそのまま維持するのではなく、周辺街区との調和といった大通公園にふさわしい緑量を検討し、適切な樹木の間引きや下枝の整理等を行っていく。



03-F

大通公園沿道の建物更新機会を捉え、連携して公園の整備を行うことで、公園と周辺街区との一体感を醸成する。



大通西4南再開発イメージ
出典：大通西4南再開発地区住居再開発組合

04-D

歴史的・文化的な背景や今後のまちづくりの方向性を踏まえながら、各丁目の空間コンセプトを検討する。



04-F

沿道の土地利用や丁目ごとの公園利用状況を踏まえ、芝生・樹木・花壇・舗装・水景施設などの構成に変化を持たせ、歩きたくなる空間整備を行う。



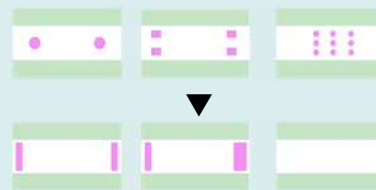
【公園の各丁目間の関連付けについて】

- ・ オープンな空間の連続性を継承し、舗装や芝生・花壇の配置など、隣接する丁目の景観的な連続性と一体性を確保するデザインとする。

例）隣の丁目と、花壇や舗装等の景観構成要素を同調させ、連続的な空間を創出する。

【樹木・芝生・水景施設・花壇について】

- ・ 都心のオアシス機能を果たす公園の樹木・芝生・水景施設を継承する。公園内に等間隔に設置されている各施設については、丁目ごとにメリハリを付け、変化があり、歩いてみたくなる環境に整える。



花壇の配置イメージ

メリハリのある花壇のイメージ
（札幌市 百合が原公園）芝生広場が景観的軸を形成するイメージ
（グラングリーン大阪）

■空間計画について（景観・デザイン/動線） 計画の経緯・現在の大通公園

明治～昭和期の経緯・考え方

- 明治期：長岡安平の設計思想「自然的目づつ、逍遙的な景観形成」

平成の再整備の考え方

- 一区画で一応の自己完結を示し、求心的幾何パターンを大きく否定する理由がない。
- 空間特性、平面デザインの方針より、**現況の直進園路、広場形態を尊重する。**
- 舗装材の質、デザインを大通公園の景観として検討、各街区にあったものを選択。
- 視覚の変化に乏しいので、**視点が変わる手法を検討。**

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

- バリアフリーやイベント対応で、園路など全体的に平坦化を図る。**

出典：ランドスケープシンポジウム2009

現在の大通公園

- 大倉山・テレビ塔への眺望などは、市民から親しみ愛されてきた。
- 公園施設の配置状況、イベント時のプレハブ設置、樹木の成長などにより、**沿道・周辺街区とのつながりが薄れている。**
- 市民ニーズとして実際の利用に結び付いた改善が求められており、**デザイン・施設形状共に、都心にふさわしい質の高い公園の設えが求められている。**
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠け、利活用及び賑わいの連続性が不足している。
- 公園側歩道部（2m歩道）は歩行空間とも緑化空間とも言えない中途半端な空間になっており、沿道に対する裏側感も生じさせている。



明治末期の大通公園
出典：札幌市文化資料室



昭和30年ごろの大通公園
出典：札幌市文化資料室



現在の大通公園
出典：さっぽろ観光写真ライブラリー

大通公園のあり方より

- 01-B 樹木や芝生からなるみどりの軸とその先に見える山並みやテレビ塔への眺望を維持・継承していく。



- 02-B 多様な過ごし方を選択できるよう、樹林帯内へのテーブル・ベンチの配置や、ほど良い高低差の創出などを検討する。



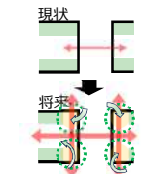
- 02-A ブラック・スライド・マントラ（西8丁目）やクジラの山（滑り台が併設された築山）、遊水路のように、景観への配慮と実用性が兼ね備わった誰もが楽しむことができる遊びやいこいの機能の充実を検討する。



- 03-D 公園に隣接した2mの歩道部分については、**良好な通行空間を確保した上で、周辺街区との一体感を醸成する設え**を検討する。また、これに隣接する車道との一体的な利活用についても検討する。



- 03-E 街区の角部に人の流れを受け止める広場空間を設けたり、樹木の下枝整理による見通しの改善を図ることで、回遊性とアクセス性の向上を図る。



- 04-A 樹木や芝生からなるみどりの軸や、その先に見える山並みやテレビ塔への眺望を維持・継承するとともに、**サインや照明灯などのデザインを統一**することで、一体性のある景観を形成する。



- 04-B 公園内にとどまらず、札幌市資料館（西13丁目）や時計台（西2丁目）、創成東地区への回遊性やみどりの一体性も考慮した空間整備を検討する。



今後の方向性

景観・デザイン計画

【景観について】

- 大通公園の中でも特に多くの人が往来・滞留する**大通公園西3丁目、西4丁目については、大倉山やテレビ塔への眺望を確保する。**



テレビ塔から大倉山を望む眺望のイメージ

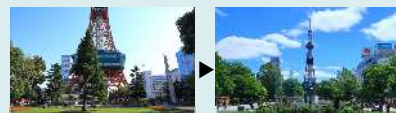


西7丁目からテレビ塔を望む眺望のイメージ
（出典：大通公園のあり方（令和7年（2025年）3月））

【施設デザインについて】

- 街区・道路・公園の一体性をさらに感じる空間**とする。
- 公園内の施設は、**質感、色彩などに統一感を持ちながら、各丁目の個性を感じる設え**にすることや、**維持管理上必要な仮設物についても、景観に配慮すること**など、**大通公園におけるデザインルール**を整理する。

- テレビ塔の景観の魅力をもっと効果的に引き出すため、**テレビ塔全体を周囲の緑とともに見せる「引き」を尊重し、鑑賞しやすい空間を設ける。**撮影スポットになっている西1丁目から西3丁目では、**視線の高低差を利用した空間や滞留できる空間を検討する。**



- 例）2丁目の広場の一部を掘り下げテレビ塔側を向いて腰掛ける場を整備するなど鑑賞しやすい空間とする。

動線計画

【主要な園路について】

- 平成の再整備の考えを踏襲し、主要園路は**直線的な線形**とし、快適な歩行ができる幅員とする。

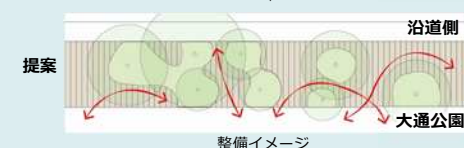


【その他の園路について】

- 管理用車両やイベント用作業車両の動線については、利用状況を踏まえた上で、**効率的な配置**とする。

【逍遙的なみどりを感じる動線について】

- 南北の樹林帯の中に、**人の居場所となり、歩行を楽しむことができる逍遙的空間を重ね合わせる。**2mの歩道部分を含む道路空間については、道路部局やまちづくり部局と連携し、利活用等について検討を進める。



■ 植栽計画について

計画の経緯・現在の大通公園

平成の再整備の考え方

- 樹林地、芝生、花壇は現況の形態を尊重する。
- 樹林、芝生、花壇の量は、施設が増えても可能な限り現況を維持する。
- 樹木植栽の無秩序と過密状態を解消する。（高木の配列の無秩序、ライラックの列（花木の主役）の貧弱さ、仕立物のイチイの多さ、丁目線沿いのオウシュウアカマツ）
- 整備にあたり、樹木は3列構成とする。（東西方向の緑の強い景観軸形成のため外側に高木、大通公園の花木の主役として園路沿いにライラック、丁目、数丁目ごとの特徴として中間に中高木）
- 芝生は硬化防止を図るため芝床の改善を図る。
- 花壇はボーダー花壇を新設する。

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

- 利用のし易さを考え芝生への立入制限のための「ななこ垣」を廃止。

出典：ランドスケープシンポジウム2009

現在の大通公園

- 高木の平均高さが20mを超えている樹種がある。（倒木の危険性、維持管理の難易度大）
- 過密状態のため、被圧されている高木がある。（全体で見ると1本あたりの植栽面積は5.5㎡相当あり、生育環境は満足している。）
- 樹木の生長により、生育空間や視界の確保が困難な場所がある。
- 芝生床の硬化などによる芝生裸地化。立ち入り禁止措置が頻繁に発生。
- 花壇づくりの担い手の減少。



今後の方向性

- ・ 東西に連なる象徴的なみどりの軸を継承する。
- ・ 大通公園の重要な要素である芝生と花壇は継続。花壇規模は現状維持を基本とし、今後の状況を見ながら柔軟に規模や形状等を調整する。
- ・ 多くの人が集い活発な交流が生まれる札幌の顔となるエリアでは、芝生の植栽基盤の改善を行うとともに、芝生保護材や舗装材を適切に配置して、踏圧による損傷を防ぎ、生育を良好に保つ。
- ・ バラやライラックなど園芸品種を用いた植物の魅力、ガーデニングの魅力を伝える。



大通公園の芝生と花壇の様子



踏圧により損傷を繰り返す芝生



バラ花壇の様子

大通公園のあり方より

01-A

鬱蒼とした樹林環境の改善や健全性が低下した樹木の更新などを行い、長く市民に親しまれてきたみどり豊かなこの空間を維持・継承していく。



01-D

様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるような施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図る。



03-A

現状のみどりをそのまま維持するのではなく、周辺街区との調和といった大通公園にふさわしい緑量を検討し、適切な樹木の間引きや下枝の整理等を行っていく。



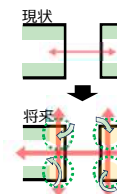
03-B

各丁目に均一に配置されている芝生や花壇については、より注目され親しまれるものとなるよう、配置や形状、植栽基盤等の見直しを行うとともに、良好な状態を維持する仕組みについても検討する。



03-E

街区の角部に人の流れを受け止める広場空間を設けたり、樹木の下枝整理による見通しの改善を図ることで、回遊性とアクセシビリティの向上を図る。

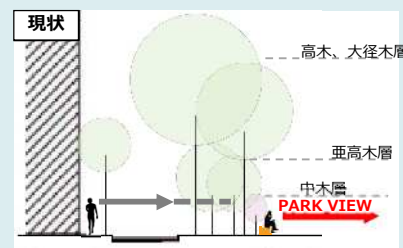


04-B

公園内にとどまらず、札幌市資料館（西13丁目）や時計台（西2丁目）、創成東地区への回遊性やみどりの一体性も考慮した空間整備を検討する。



- ・ みどり豊かな憩いの空間を維持・継承するため、過密状態にあり被圧され健全な生育が見込めない樹木の間引きや、安全性確保を目的とした健全性の低い樹木の伐採を行う。
- ・ 人通りの多い丁目や回遊性を創出したい丁目では、角部の視認性に配慮した既存樹木の剪定等を実施する。
- ・ 緑のボリュームを維持しつつ、見通しのよい緑を創出する。
- ・ まちの日常風景が重なり合うよう、植栽と休憩施設等を活用し、外向きの空間を創出する。
- ・ 周辺街路樹を意識した樹木を選定し道路・公園との一体性を創出する。



外向きかつ見通しのよい緑の創出イメージ

■施設計画について(ベンチ・遊具・彫刻・噴水・トイレ・水景施設など) 計画の経緯・現在の大通公園

平成の再整備の考え方

- みどりにあふれ、水にふれる都心のオアシスとしての機能を大切にすること。
- 札幌の都心景観にふさわしいデザインとし、都市と自然が融合した緑、花、水、光などの演出をする。
- 噴水はテーマを設定し、多様な水の演出・水にふれあえる機能・子どもたちが水遊びができるような機能をそれぞれ備える。
- ベンチ、ゴミ箱、案内板、照明灯、車止めなどは、大通公園にふさわしいデザインを考えて適正に配置する。
- 彫刻類が多く点在しているが、点景として活かし、必要最小限の移動等にとどめる。
- イサム・ノグチの滑り台彫刻「ブラック・スライド・マントラ」を設置する。
- ライラックまつり、夏まつり、イルミネーション、雪まつりなどのイベントに対応できるように空間を確保し、インフラの充実を図る。

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

現在の大通公園

- 【ベンチ・遊具・彫刻・トイレなど】
- 夏場の気温が高くなっているため、涼しさを感じられる機能が求められている。
 - ベンチは同じデザインで統一感はあるが、利用者の過ごし方に応じた休憩場所のバリエーションに乏しい。さらに全体的に老朽化している。取り外し可能なベンチは、5月から10月まで設置されていない丁目が多く、市民から設置要望がある。
 - 園路灯を除き、噴水や園路下の演出用照明施設はLED化が進んでいない。
 - 遊戯施設は複合遊具（H29年度設置）は比較的新しいものの、単体遊具は更新年限を迎えている。
 - 西3,9,11丁目のトイレはユニバーサル化対応済み。西5,7丁目のトイレは未対応である。
 - 使用見込み期間を超過した施設などが約9割を超えている。

- 【水景施設】
- 日中だけではなく、夜も楽しめる機能が求められている。
 - 西3丁目や西4丁目の噴水は水が園路まで飛散するため、イベント開催時は稼働していない。
 - 老朽化（特に電気系・機械設備系が深刻）によりシーズン中にもかかわらず稼働できない噴水がある。



今後の方向性

【ベンチ・遊具・彫刻・トイレなどについて】

- ・ 公園施設は、**ユニバーサルデザインを原則**とし、**イベント開催時や日射や降雪の状況等を考慮**した配置や形状とする。
- ・ ベンチ等の休憩施設は、**各丁目の特色や利用者の過ごし方に応じ機能に変化を持たせ**、動かせるベンチやテーブルベンチなども設ける。
- ・ 遊戯施設は、**遊びの機能と景観を両立**させたものとする。
- ・ 照明は、**LED化**により省エネを図りつつ、各丁目の特色を考慮して、**夜の景観を楽しむことができるような演出**を行う。
- ・ 西5, 7丁目の**トイレのユニバーサル化**を図る。
- ・ 彫刻等については、**基本的に移設は行わないが、移設を行うことで存在感や魅力が向上する場合は、設置された背景と行先の景観等を考慮して他の丁目への移設も検討**する。
- ・ 季節ごとに変化する情報を発信できるような公園案内を設置する。
- ・ 案内サインは、利用者の立場に立ち**提供する情報の要素と役割を検討し、景観や周辺の公共施設とのデザインの連携を考慮した上で設置を検討**する。

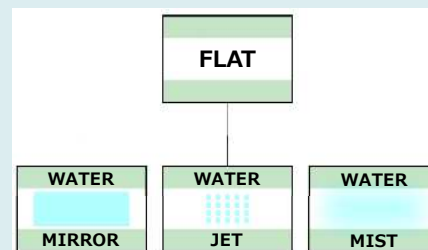
大通公園のあり方より

<p>01-C</p> <p>野外彫刻などは、大通公園内で維持・継承していくことを基本とするが、樹木などの陰に隠れ、十分に認知されていない施設も存在する。こうした施設については、存在感や魅力を高めていく手法を検討する。</p>		<p>01-E</p> <p>二次元コードを活用した多言語対応の公園案内や施設の解説など、ICTを活用することで、公園利用者の利便性の向上と管理運営の効率化を図る。</p>	
<p>02-B</p> <p>多様な過ごし方を選択できるような、樹林帯内へのテーブル・ベンチの配置や、ほど良い高低差の創出などを検討する。</p>		<p>02-C</p> <p>散策や雪とのふれあいといった野外活動などにより、年間を通して札幌の四季を感じ、体験することができるような空間整備とコンテンツを検討する。</p>	
<p>02-F</p> <p>様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるような施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図る。</p>		<p>03-C</p> <p>都心のオアシスである水景施設については、現状の公園利用や持続可能な管理運営にも配慮し、施設数や配置の見直しを行いながら、新たな形で水に触れ合えたり、水との距離感が選択可能な設えを検討する。</p>	
<p>04-C</p> <p>みどり・花が豊かな空間で、歩く・休む・遊ぶ・食べるなどの多様な過ごし方が選択できるように、機能的な施設配置を行い、利活用方針を検討する。</p>			



【水景施設について】

- ・ 親水機能と景観機能（目や耳で楽しめる）を設けるほか、**夜も楽しめる機能、快適性の向上、環境負荷の低減に寄与する機能**を設ける。
- ・ 多様な水の見せ方、かかわり方で**多彩で印象的なシーン**を創出する。
- ・ 園路へ水の大幅な飛散などの不具合、維持管理や修理・更新にかかる費用、空間コンセプトとの整合性などを総合的に検討し、**「そのまま補修するもの」「改変し補修して残すもの」「廃止するもの」**のいずれかに分類し、メリハリを付けた施設配置とする。



多様な水の見せ方のイメージ



水と触れ合うことができる水景施設のイメージ
(東京スカイツリータウン ソラマチ広場)

■環境計画について（環境計画） 計画の経緯・現在の大通公園

平成の再整備の考え方

- 電気や水道などのインフラは、老朽化しているため電線類の地中化、制御システムなどの検討を行い、更新する。
- 浸透式雨水排水施設や浸透式舗装により、植物生育のために雨水の地下還元を図る。

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

現在の大通公園

- 夏場には、高木が快適な緑陰を創り出している。
- 野鳥や昆虫をはじめとした生物の生態系ネットワークにおける都心の大切な移動空間（コリドー）となっている。
- バラ園や花壇は、化学農薬を使用しない管理を行っている。
- 剪定枝や落ち葉などは他の公園で堆肥化し、有効活用している。

大通公園のあり方より

01-D

雨水貯留・浸透機能が期待できる植栽基盤や舗装基盤などの導入を検討し、公園が持つグリーンインフラとしての機能を充実させ、持続可能な都市を支える象徴的な空間とする。



今後の方向性

- ・ 大通公園のみどり豊かな空間のひとつの手法である、緑被率や緑視率などがもたらす環境的な効果を定量的に把握するため、**気温・表面温度・生存生物量などのデータを評価・分析し、視覚化する手法を検討**する。
- ・ 平成の再整備における浸透式排水施設の考えを踏襲し、下水道管の負担軽減を図る。
- ・ 大通公園全体を通して**貯留浸透機能が高い植栽・舗装基盤を積極的に整備**する。

雨水浸透緑化（雨水浸透型花壇）の取組概要

グリーンインフラ（雨水浸透緑化）の導入実績

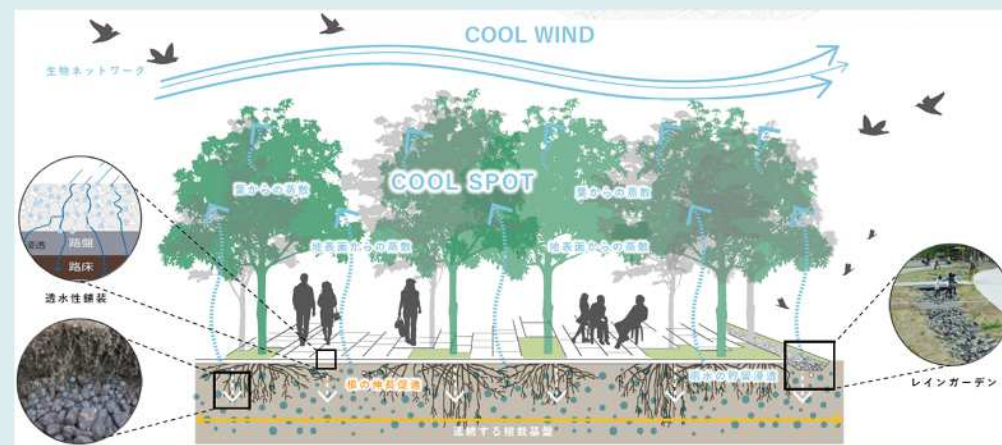
都市公園6公園（円山公園[円山動物園]、厚別公園、平岡公園、月寒公園、豊平公園、新渡戸稲造記念公園）、**民間施設1施設**（サッポロガーデンパーク）に試行的に導入。



札幌市における雨水浸透緑化の取り組み事例

出典：国土交通省国土技術政策総合研究所

- ・ **積極的な自然資源の循環利用による CO2固定・削減を推進**する。
- ・ 緑陰により気温上昇を抑制し**クールスポット**を創出するとともに、ヒートアイランド現象の緩和に寄与する。
- ・ **近隣の生物ネットワークに寄与するみどりの拠点として整備**する。（生物多様性配慮、自然環境・学習の場等）
- ・ 今ある健全な緑を守るために、**根系誘導を促す舗装・植栽基盤を整備**する。
- ・ 高木は、札幌の気候に適した在来種などを植えることで、**その地域に生息する鳥類や昆虫類の生息環境の創出等に寄与**する。



グリーンインフラのイメージ

■管理運営計画について

計画の経緯・現在の大通公園

平成の再整備の考え方

- これまでの市民や民間による大通公園への貢献の変遷
 - 札幌市花壇組合やスポンサー企業による花壇の造成
 - 企業や団体等の寄付による噴水や彫刻類の公園施設の設置や植樹
 - 雪まつりや夏まつりなど、市民や企業による公園の活用
- 管理運営形態の変遷
 - 平成11年度までは、札幌市役所職員による直営管理
 - 平成12年度から札幌市公園緑化協会による管理委託制度
 - 平成18年度以降は指定管理制度による管理運営
- 管理施設は集約化し、効率をよくなる。
- 噴水や照明灯などは、管理事務所で一括管理（制御盤内のタイマーによる）ができるシステムを導入。
- 冬でも休息できる施設は設置しない。長時間休息するとは考えにくい。

出典：札幌市研修資料 大通公園再整備事業計画について

現在の大通公園

- 平成の再整備時には、西6丁目以西で夏季のイベントを行うゾーニングであったが、時代の変化とともに、イベント利用の範囲や規模が広がってきている。
- イベント会場としての認知度が高い一方、都市公園としての情報発信に乏しい。
- 特に噴水にかかるランニングコストが高額であり、大きな負担となっている。
- 花壇整備に携わる造園業者が年々減少しており、花壇コンクール用の花壇が減っている。

大通公園のあり方より

01-E 二次元コードを活用した多言語対応の公園案内や施設の解説など、ICTを活用することで、公園利用者の利便性の向上と管理運営の効率化を図る。	01-F 大通公園の集客力や発信力を活かし、先進的な取組や社会実験を行うことで、新たな価値や情報を発信し共有する場としていく。	03-B 各丁目に均一に配置されている芝生や花壇については、より注目され親しまれるものとなるよう、配置や形状、植栽基盤等の見直しを行うとともに、良好な状態を維持する仕組みについても検討する。
03-F 大通公園沿道の建物更新機会を捉え、連携して公園の整備を行うことで、公園と周辺街区との一体感を醸成する。	04-C みどり・花が豊かな空間で、歩く・休む・遊ぶ・食べるなどの多様な過ごし方が選択できるように、機能的な施設配置を行い、利活用方針を検討する。	05-A 効率的かつ効果的な管理運営を行うため、従来の画一的な行政主導の公園の維持管理から公園を経営するマネジメント体制への転換を検討する。
05-B 「都心における開発誘導方針」の中で敷地のまちづくり貢献に対する容積率緩和の取組が位置付けられているため、当該取組の中で公園への貢献がさらに進むよう検討する。	05-C 都心にある公共空間としての役割と価値を高めるため、周辺環境やニーズの変化も踏まえつつ、民間事業者や市民などと協働し、新たな公園の使い方を模索していく。	05-D 社会貢献意欲を有する様々な担い手が公園の魅力向上に寄与できるような仕組みを検討する。
05-E 民間事業者や市民団体のボランティア活動や利用の場として積極的に機会を提供し、地域への愛着や生きがいを育む仕組みづくりを検討する。	05-F 市民団体や学生、企業といった多様な主体の参画を促し、公園活用のアイデアを取り入れ、地域の人々の交流や新しい価値が生み出される機会の創出を検討する。	

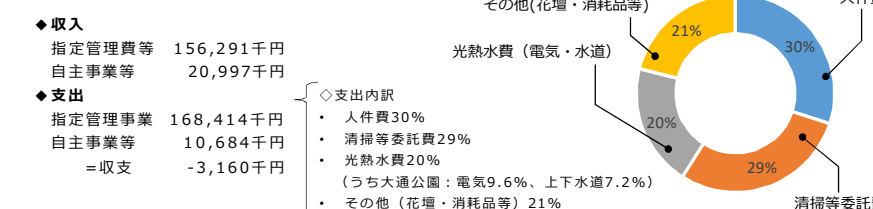
今後の方向性

【持続可能な公園の維持管理・運営と民間活力の導入可能性の検討】

- 維持管理運営について
 - 管理運営コストの分析による、課題と民間活力を導入できる伸びしろ（ポテンシャル）の洗い出し
 - 芝生や花壇を持続可能な魅力的なものとするための配置、形状、運営手法の検討
- 社会貢献・市民または企業との協働について
 - 活動状況や活動メニュー等の分かりやすい情報発信の強化
 - 多様な担い手が参加しやすい活動支援の検討
 - 寄付などによる貢献メニューの充実
- 公園利用（一般利用・占用利用）について
 - 「いいい」と「にぎわい」の両立と公園利用者の快適性・利便性の向上のために、現在の利用ルールと占用許可の規程の内容やプロセスの確認・整理を行い、その結果を反映した管理運営計画とマネジメント体制を検討する。
 - 市民主体による公園の利活用ができる仕組みを検討する。
 - すべての公園利用者の利用環境の向上のために、四季を通じた見どころや施設情報などの情報発信目的の明確化と実施状況の整理、ツールと手法（デジタル化等）を検討する。

（参考）現在の大通公園・創成川公園の管理運営の状況（令和6年度実績）

指定管理者：公益財団法人 札幌市公園緑化協会



（参考）・市民や企業によるボランティア活動の参画状況（令和6年度実績）

（市主催）企業公園ボランティア：通年10団体（80人）、短期25件；主な活動は清掃（指定管理者主催）市民公園ボランティア活動1,877人（のべ人数）：花壇管理、ガイド

・寄付等による貢献状況

物品の寄付	2件（花苗、トイレトペーパー）
花壇の造成	5社 企業スポンサー花壇、35社 札幌市花壇推進組合
札幌市への寄付	1件 さっぽろ夏まつり福祉協賛さっぽろ大通ビアガーデン
札幌市都市緑化基金への寄付	1件 北海道マラソン

【公民連携による公園整備について】

- 大通公園（西4丁目）では、再開発事業者と連携した公園整備により、公園と沿道街区の一体的な空間形成を目指す。
- 沿道ビル等の更新機会を積極的に捉え、公園の整備や寄付等の民間による貢献を引き出すための具体的な取組を行う。
- 民間活力導入の目的（賑わい創出、サービス向上、財源確保）に照らし、公園で開催される既存のイベントや周辺環境との相乗効果という観点から大通公園に適した民間活力導入手法を分析し、検討する。
- 手法例：指定管理者制度、公募設置管理制度（P-PFI）、民間開発に伴う公共貢献、設置管理許可、占用許可（イベント）等



大通西4南再開発(イメージ)
出典：大通西4南地区市街地再開発組合